

事例を挙げると分かりやすい。

Win-Win の結果を目指す話し合いを目指していきたい。

小学校と中学校の違い

小学校は保護者と密接

中学校

→先のことを見据えてやってほしい。

特支学校

体験をさせたい

寄宿舎

保護者によって対応が難しい。

初めの対応をしっかりやっていきたい。

ことばのスキル向上

伝える方法

関係を作るのは難しい。

時間がかかる。分かってもらうまで3年間は短い(中学)

つながなければならない所、たくさんある。

時間と場の設定が大事だね。

よかった事例を言うとピタッと保護者と合った時うれしい。

10 言ったら 1 分かる

(ほめたら)

(指導)

それが秘訣

小・中・高 連携うまくできるといいな。

家では出来ています。

集団ではできない。

本人 言えない→親は分かりようがない

働きにくい→がんばろう

高等部は何やってるかな？

褒められると返事よい

Win-Win 関係

入ってから早目に話す。

本音で話すまで難しい。

明日から取り組めると思ったこと

- 「こんな支援をしたらこんなふうによくなった」という伝え方。
- Win-Win になるような交渉術が使えるようになるといい。
- オレンジを半分にするのではなく、目的を聞いて、話し合うようにしていく。
- 柔軟な見方をしていかななくては。
- 職員同士が同じ目線で見ること「～ができる」「～ができない」
- 聞く時に自分なりのストーリーを考えてしまったが、聞く耳をもっていきたい。
- 困っていることを伝えるだけでなく、どうしていこうか、どうしてこうしているのかを考えていく。
- こっちが困ってるのではなく、本人がなぜ、何に困っているのか。

難しいこと

- M-CHAT、PARS は低年齢の子のためのものなので、学齢児には使えない。
- 保健師さんは伝えるのがたいへんだらう。細かいチェックリストがあれば伝えやすくなる。
- 世間体を気にして特別支援学校在籍を反対する。
- 診断名、あった方がいいのか？

<明日から取り組めること>

- 面談時 Win-Win の関係
「話しやすい」人でありたい。
- 診断ありきにならない。
- 言い方一つで受け止め方が変わる。
- 話の仕方が大切。「始めの一言」が大切。
- 自分で実感することの大切さ。
- 信頼関係がある人からの言葉なら受け止められる。
- 自分の言葉の引き出しを増やす。

外国でのトイレのマーク
眼鏡

- 保護者の心理
診断名より**困り感**を優先
眼鏡の話はよい！！

「周りが...」ではなく、「本人が...」という
目線で話すように！！

保護者の気持ちになって、
協同して子どもをよりよくしていく

<難しさ>

- 自分一人では難しい。
支援者とともに→チーム作り
- 言葉に気を付ける。
保護者だけでなく児童・生徒に対しても。
- 幼児期の情報収集。
- Win-Win の関係を探る。生み出す。両者の思いを引き出す。
こり固まった価値観を捨てる。
- 保護者の心の揺れの察知。
どのタイミングで伝えていくか。交渉術を磨く。

※取り組めることと難しさは表裏。でも、気持ちさえあれば難しいことはない。

※難しいとは感じて、やれば必ずよりよい方向に行くことばかり！！

※本日の講義をきいて明日から取り組めると思ったこと。

◎ はじめの一言が大きい（話はじめを慎重に…）

アンカリング

- （雰囲気かわる。すみませんよりありがとうございます。マイナスではなくプラスの方向へ進むように言葉を選んで使う）
- 答え方でこうも変わる。
裏ではなく表のほうをどんどん伝えることで伝わること。
- マイナスからプラスへのはたらきかけを促す。
見方を変えてのアプローチ。
- こどもを支えるまわりの人たちを支える支援。心の安定を支える。
支援も必要になってくる。
- 不確かなもの、動くと危険。

◎ 明日から取り組めると思ったこと

- 保護者との協働、ものの言い方で変わる。信頼関係（親と子ども）
- オレンジの話。0か100か。余裕をもって話の仕方を。
－（マイナス）の話が多かったことを反省。＋（プラス）の話を多く。
診断を急ぐのではなく、理解すること。
- 子どもの困難さを家の方にどんなふうに伝えるか。診断はゴールではない。
保護者と信頼関係を築くには話し方、雰囲気。
- 子どもを正確にみとる。
- 保護者との協働→どうやったらその子の力を伸ばせるか。

◎ 無理だ、難しいと思ったこと

- 保護者への働き方。学校に対する不信感？
話し合うのが難しい親。進学に向けて不安。
- 保護者対応

~~~~~  
小保の連携も大事だが、行政との連携も。

児童クラブと幼保の連携も。

明日から取り組めること

◎ 話をよく聞いて、Win-Win を目指していく（話し合いの中で）

実  
例

幼少期の検査もなく小になって進められたが受け入れられなかった。  
難しいなと思う。

- 保護者の受容が難しい。
- ストレートに切り出すことが多かったから。みんなで共有して日々の会話が大切（うまくいった例）

◎ 子どもが Happy になれることを目指す話し合いを。

出来なかったけど、支援でできるようになったことを伝え続けた。  
マイナスのことだけを伝えると不満

つながりを続けてきたことで保護者の理解を得る→医療

信頼関係づくり 前向きになれる

気持ちを動かす伝え方

いなか→周りの子や人の目

- 保護者と話ができる関係づくりの大切さ
- 介助員さんとの対応（理解してもらう）。どうやって伝える。

<明日からできそうだ!!> → ▲「何かありましたか...」  
○「くわしく日程を決めましょう!」

意識してやっていく  
こと大事!!

◎ 「はじめの一言」を準備の中に入れていく (話し合いの目的に)

こまっているんです — モニターする  
— どうしてかな?と考える。

- 出来ない事実だけを伝えるのではなく——→策を考えていく (共有していく)
- 体験をともなって親が実践できるように伝えることが重要だと分かったけど…引き出しをもらった。

子どもをよくしたいという気持ちは同じ

日ごろの人間関係がとても重要 — 伝え方、対応の早さもある。  
— ケガをした時、何かあった時。  
すべてにつながる

信頼関係——「子どもを先生がわかってくれている!!」という気持ち。

保護者の「ゆれ」を小さくする手助け!!

最大の目標をなしとげるため

親とチームを組む

ホワイトボード

- 地図

共有しながら考えていく

<これはむずかしい...> → 気を付けよう! —————→ シングルではなく  
小: 担任 メロンの発想 → チームで解決!!  
中: いろんな視点  
特: ケース会議 (いろんな立場から)

先入観をもたずに...

思い込み、かまえる

いろいろなフォーカスでみられるように (複数担任制をいかしていきたい。)

Win-Win のスタンス

価値観

↑ おとしどころを考えるのではなく、まずは話そう!

ゴールを決めない

一緒に考えていくという

アセスメント——幼児期

——チェックリスト ・引継ぎ、連携

※情報を共有して各学校で広めていく。

<できそうな事>

- 初めの一言目を考えてから相談に望む。
- 言い方、伝え方を考える。
- 既成概念を崩す。
- 仕組み外のことからも考える。
- 子どもの為になる話し合いを意識する。
- 天気の話から入るのは大事。

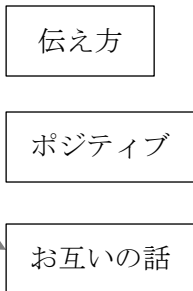
<難しい事>

- 親に障害のことについて伝えるのは難しい。
- 初回面接準備、なかなかできていないが、本当はとても重要なのでやらなければならない。
- Win-Win の解決策を見つけ出せない。
- パイを作るのは難しい。
- 研修後、チーム員に伝えるのは難しい。
- 電話で心意さを読み取るのは難しい。



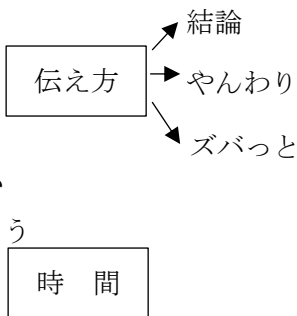
<明日から取り組める>

- Win-Win になれるように提案
- お互いの話をきく
- 会話の始まりをネガティブでなく広く
- 最初の発言
- 伝え方
- 良い情報として伝えていけるか



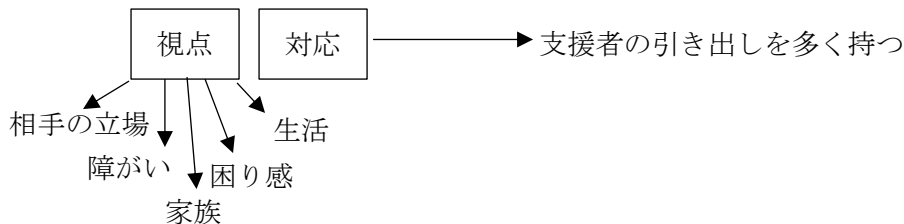
<難しい・無理だと思ったこと>

- 初回の面談で正確に把握すること
- 言い方、表現方法
- (新生児訪問の時) 気になったことをどう伝えるか  
ストレートには伝えにくい。前向きな方向になるよう
- やんわりと伝えても難しくズバツと伝えるのも…
- 日々時間を気にして結論先に話をしてしまう



<その他>

- 大人になってから発達を診断された方の対応



どのように受容して頂けるようにフォローするか

☆明日から取り組みそうなこと

- 子ども・保護者と話すとき、最初に話す一言 かまえないように。
- + (プラス) の面から話す。
- 通級・転籍の必要のある保護者に話す機会  
その子の困っていることを代弁し、そうすると～いいことがあるという話し方
- 「気になることがある」→話題がそっちにいかないように
- 「子どもが何を困っているかということ」を中心に話したい  
教員や親が困っていることではなく
- 人間関係を築くための雑談

☆むずかしかったこと

- ① 普通学級に在籍 離籍・文字が読めない——支援学級に転籍する話  
母親は認められない。一人だけ違う園から来たことが原因だと認識している。  
学校で個別に学習する場を設け、その子の困り感を軽減し、その子自身が学校が楽しいと家と言うようになったら母が変わった→受診の方向に。
- ② パニックになる子 「この子がパニックになると一番つらい。自立するためにできることは何か」と伝えることで医療機関につながった。  
本人が困っている、辛い、という気持ちにどれだけ近づけるかで親も変わる。

☆その他

- 親は子どもにさらによくなってほしいという思い⇔教育相談員 限られた時間内でその子の状況を判断  
その子にとって何が一番大切か、どうすることがいいか  
「障害」という言葉ではなくて「～に困っている」という言い方で気持ちに寄り添う
- 子どもに少しでもよくなった場面。いい関係ができると親もかわってくる。  
まずは子どもとの関係
- いいことがあったら、すぐ伝えていくのもいい方法。
- 子どものがんばりの裏には親のがんばりがあるということを理解しておく。
- 保護者とありのままの姿(本人)について話し合える関係づくり(いい面も悪い面も伝えられる関係)

- 大学生 発達障害の学生がいて今後増加する。学校の対応をしていけばよいか。
- 児童館 発達障害の子に対する接し方。保護者に対する接し方について知りたい。
- 表題 発達障害の早期の気づき。中学生に対応する。1:1 で関係するが、気づけたら良いと考えた。  
→ どのような行動からとか、気づきにくいので視点が欲しい。  
違和感を感じる子がいる。  
境界領域の子達の気づきがあるとよい
  
- 接し方——子ども・親
- 気づき——本人・周囲
  
- 子どもへの接し方  
日頃の状態から支援の仕方を考える。どこまで共有する。発信の仕方。  
理由を聞く。その子の立場に立って状況を確認する。  
人数が多く、個別対応は困難。集団の中で上手く活動できるようにする。  
  
合理的な配慮 年齢のいかない子どもには通用しない。  
お約束をして、できたら褒める——環境の変化に弱い。  
先生と相談員 立場によって気づき方も変化する——垣根を低くする。
  
- 気づき  
多動・年齢など子どもの特性に気づく。  
学生によっては、時間をかけることで変化することに気づく。  
変化に気づく。  
一人一人の困り感が異なると思う（ひとこと目の重要さ）を大切にする。  
自分の理屈をふりかざして決めつけない。  
困り感の理解と対応。 Win-Win ができるか。

1. 取り組めると思ったこと

- 母との信頼関係の築き方を学んでいきたい
- 発達障害の支援のために事業化（村上市）する予定。先入観念しないようにしたい。
- マイナスに考えやすい面、ポジティブになる考え方のクセ必要。
- 伝え方一つ。見方・柔軟に考えていきたい。保護者に理解してもらって伝え方。
- 乳幼児健診。保護者が受け入れていないことも多く、伝え方難しい。言葉を選びながら。
- 保護者の話を聞く姿勢にしたい。
- 保護者が受け入れるのに不安定な状態。
- 保幼小連携大切

2. とても無理、難しいと思った。

- 親への伝え方、難しい。

①明日から取り組めると思ったこと

- できないことはなさそう。ポジティブに話してみる。言い方を工夫する。
- サービスの提供。面接の際に世間話も含めて信頼関係を築いていきたい。  
手を組んだりした体験も保護者に伝えていき、障害を受け入れられるよう支援する。
- 1.6 健診担当。第一印象って大切。点を大事にする。話を聞いてみて改めて実感。  
いい出会いをしていく。  
半分に分けるしか分からなく、引き出しを増やしていきたい。ネタを増やしていく。
- 常に Win-Win の関係を考えていられるように支援していきたい。  
保護者も楽しく育児ができる方法。                      アセスメントして  
健診をもっと豊かにできるようにしたい。
- 少しだけの時間しか関われない。園 HV での困っている場面を保護者に伝えていくことで信頼関係を築いていく。
- 子どもよりも大人に関わることが多い。本人納得しないまま相談するケース多い。  
できるだけ分かりやすく伝えられるようになりたい。

②難しいと思ったこと

- 障害を受け入れられない人に対しては難しい。支援は受けるけど、障害というワードは NG の人には対応が難しい。
- 障害という窓口の名称も変えてほしいという要望もある→発達支援などの表現に。
- 子どもが障害があると親も傾向があることも。親に余裕がない。家では困ってない。
- 思春期・青年期への保健師の関わりが少ない→性教育の部分のみになる。
- 学校の先生にも一生懸命な人とそうでない人、差がある。自己肯定感が低くなってしまう。

<明日から取り組める事>

- お互いに 100%になれるような面談。
- 新潟市でも研修や意見交換の場を企画。
- 保護者との距離のつめ方。
- 研修で学んだ事を他者に伝える。
- 保護者への伝え方

<むずかしいと思うこと>

- 話のくせがある。
- M-CHAT で該当する方にどう伝えていくか。
- 保護者が相談してみようと思うよう…
- 伝える時、今までのクセが出たりまとまらないところもある

明日から取り組めると思ったこと

保

M-CHAT 園独自で  
内部の研修のためにも

校園への P からの TEL、ありがたい。

特支

ネガティブにならない

- モンスタークレイマー
- モンスタークレイマーの撲滅

相

どれだけ分かりやすく伝えるか  
具体的に

- しつめる ← <sup>ダメ</sup> 園長  
発達障害の P

児ク

最初の一言、大切だけど難しい

アンケート・学校評価での生の声、きつい。  
文書での回答、難しい。直の話の方がいい。

保市

ポジティブに考える

特支  
高中

困り感によりそう

無理、難しい

特支

Win-Win 第三な考え、柔軟な考え方

相

- 連携 \_\_\_\_\_ 関係機関との
- PARS \_\_\_\_\_ 高くて無理

- 発達障害の子：大変  
早期発見の技術力  
子どもの困り感

保健師の専門性

↓  
P.認めない

医診→そのあとつながらない

保育士・教師の力量

- 気になる子

### 明日から取り組めると思ったこと

- 保護者の方に対応する時にトラブルがあった時などについてマイナスな言葉をえらんでしまうが、その子の良さを引き出すためにプラス思考に伝えていきたいと思う。
- 話すことが大事。最初の一言が大事。同じ施設で共有できたらと思う。
- そこにいたるまでの言葉の大事さ
- 何に本当に困っているかを親と一緒に話し合うことが大事。障害の名前でなく、そこまでの経緯が大事。
- その子のために何が出来るかを優先に考える。

お互いを理解し合う声かけなどで変わってくることなど

### とても無理だ！

- 発達障害の子が関係するいじめを解決することが大事。子ども達にどうやって発達障害を理解させることが難しい。(仲間はずれなど)
- 年々、発達障害の度合いが増していく(上級生4~6年になっていくと対応が難しくなっていく)
- 親が認められない(障害)ケースが多い。
- その子を高めていくにはどうしたら良いか?(まわりに害がおよぶ子、暴れる子)
- 学校も的確な指導をしてないケースもあり。
- 発達障害がある子が発達障害の子をいじめてしまうケースあり。この場合どうやって解決したら良いか?

子どもの良いところを書く紙やゲームなどをして発表できる環境もあるクラブも。

先生達も書いて OK。



テーマ

明日から取り組めると思ったこと

- 保護者の方に結果を伝える時に、良い面・悪い面を話すにはどうしたらよいか、共有することが大切。
- 親への伝え方。自分の思いが上手に伝えられるようにしていきたい。  
マイナスにならないようにと考えると、遠回しの言い方になってしまう。
- 問題行動を伝えてしまっていたので、保護者との話し合いが上手くいかなかった。  
言い方が大切。どういう言い回しがよいのか。マイナスにならないよう、プラス指向で。
- 子どもとのかかわりでどういうふうに話したらよいか。
- 保護者に対しての伝え方。  
問題を起こした方の親に毎回伝えず、何回かに1回にしている。  
立つ位置も考え、良い事を言ってから。
- 困っている事は何なのか考えさせられた→問題行動は誰が困っているのか。  
何がどのように困っているか伝えられるとよいのでは。

無理だと思うこと、難しいと思うこと

- ネガティブにならない様な言い回しが難しい。
- 伝え方が難しい
- オレンジの分け合い  
子どもとの遊びでどっちと遊ぶか決まらず困る。
- 子どもが出来ない事。行事があり、夏の課題が終わらないので親にどのように伝えたらよいか。  
↓がんばっていることから伝える。
- その時だけではなく、普段からの関係作りが大切で努力はしているが、いざとなるとお互い甘えてしまう。

加茂市●●様

◎ビジョンの共有が大切

“先”を見据えて～Win-Win

▲保留の可能性→気を付けたい

▲揺れ動く

「分かっているけど分かりたくない」

相談員として…

三条市●●様

◎ビジョン共有

“ハッピー”になるというスタンス

◎表の伝え方（ネゴシエーション）

テクニック

こじれたケースで入ることが多いので

▲不確かな情報、テクニック…

実際、はざま、ゆれ

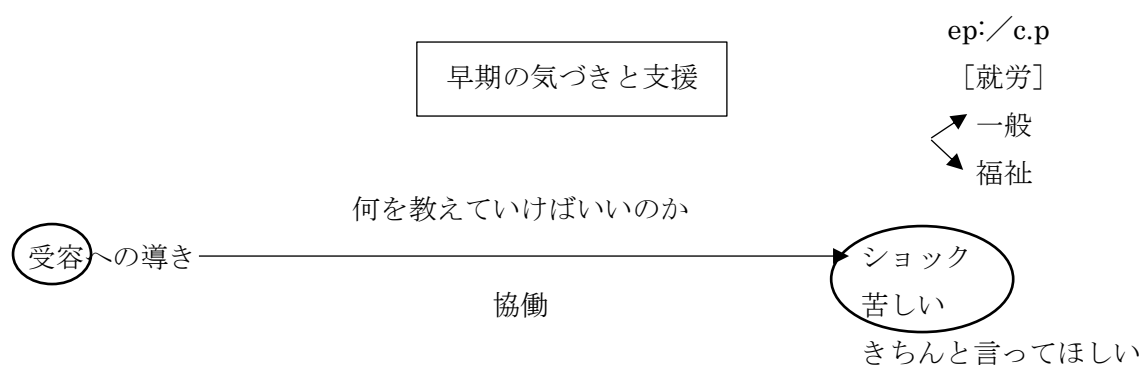
上越市●●様

◎オレンジの実と皮

→前例にとらわれない  
柔軟性

◎言い方、伝え方。

関係づくり。



阿賀町●●様

◎新しい方向を見つけていくスタンスでいきたい

▲柔軟な物の見方—研修

上越市●●様

◎客観的な物の見方を取り入れていきたい。

◎生活の質の向上→どんな大人（社会人）になるか。

その中の学校教育。広いスパンで連携を…

家庭と学校

▲“逃げるな”受け入れ 環境調整

→”1回くらいは泣こうよ“

- 33歳長男自閉症、入所中。保護者として支援できることを考えたい。→参加
- 小学校低学年特別学級 将来についてイメージをするが、なかなかイメージがわからない。  
幼少期のことがポイント  
なかなか分かりづらい障害のため難しい。
- 早期発見、早期療育が必ずしもよいとは限らないのではないか。
- ☆ • 子どもの困り具合が分からず相談にのると、問題が起きやすい。
- 法律は整備されつつあるが、保護者・支援者は手探りのままである。
- 中学部からの進路は重要
- 就労が最終目標で、そこへの支援が重要と考える。
- ☆ • 親の苦労は教員には理解しにくい。話を聞くようにしたい。  
教員の知識（理解）不足もある（障がいに対する）
- ☆ • 保護者と親が歩み寄ることが大切なのではないか。
- 親の前と教員の前で違う子どももいる、
- ☆ • 置かれている立場はそれぞれ違うので、それぞれの立場を考えて話し合いが出来たらよい。
- ☆ • 不安定な保護者の気持ちを気遣いつつ話したい。

<明日から取り組めること>

- 話し合いは世間話から。
- 最初から決めつけないで話し合いに入る。
- メロンが出せるような引き出しを持つ。
- 子どもの困難さを正しく伝えて、話を進める（手帳取得の例）
- 表現の仕方…言葉を選んで進めたい。
- 分かりやすい事例を事前に考える。

<無理だ、難しい>

- 揺れ幅…気になるけど分かろうとしてない親への対応。
- 卒後の進路…本人・保護者自身のやれる範囲分ならず、理想を持っているところのギャップへの対応。
- 障害・作業所への偏見（差別感）
- 障害ではないと考えている（受け入れない）親への対応。
- 発達障害～集団不適合・進路決定への支援の難しさ。
- 小・中だとよいが、自立に向けた子どもたち対応の話が知りたい。
- こじれている事例や親に特性のある場合。
- 困り感のない親への対応。

◎明日から取り組みそうと思ったこと

- 保護者・相手先の学校の先生と明るくコミュニケーションをする。雑談から入る。
- 保護者との話し合いで、最初の一言が方向づけをするので、そこを気を付けていきたい。子どもがどんなふうに困っているのか、理解の仕方を工夫したい。
- 保護者と事務的なやりとりになりがちだが、信頼関係を大事にできるように話していきたい。
- この子に何を伸ばしてあげたらいいか見つけられず、そこが苦しい。
- 保護者との話し合い、限られた時間の中で子どもの困り感を伝えるのは難しいが、やわらかく話に入り、最初の一言も良いことから伝えていき、その後困っていることを話していきたい。
- 生活の質の向上につなげるための支援を考えていきたい。

◎とても無理だ・難しいと思っていること

- 他の先生に言われたままではなく、他のやり方を考えていくことは難しい。選択肢は一つではないが、そこまで思い至らない。その場でそう言われるとそうしなくてはいけないと思ってしまう。
- 通常級への発達障害のある子どもへの伝え方、なかなかうまく伝えることが出来ず難しい。
- 話の第一印象が大切と言われるが、やはりクレームのこともある。それをどうやったらポジティブに持っていけるか、うまい方法があったらお聞きしたい。
- 保護者へうまく伝えられればいいが、困り感がわからない。何が困っているのかを理解しないといけないと思うが、わがままにも見える。
- 他の先生方から「働きかけがよくないので来れない」「働きかけを工夫するといい」と言われると、追い詰められた感があって気が重い。
- 昨年より調子が悪くなった子、学校看護師さんから「寝かせすぎ」と責められた。起こすと子どもが調子が悪くなる。→共通理解をはかりつつ、計画を立てる←忙しくてなかなか…
- 発達障害学生が増えている。周りが困っているが本人が困っていない。保護者にも伝えにくい。学生から依頼がないと支援チームを作れない。単位を取らせられるように。配慮の限界がある。

↓  
教員・事務員

発表が苦手。グループワークが苦手。面談もする。

※明日から取り組めると思ったこと※

- 保護者と話をする時、どんな話なのか決めつけずに話をしていきたい。
- 相手の気持ちをしっかり受け止め、信頼関係を築いていきたい。
- 物事の解決策、違う方向に目を向けて支援していきたい。
- 聞いた情報だけでなく、その裏にある情報も知り対応していく。
- Win-Win の関係性に意識を向ける。
- 親の不安定ない気持ちに寄り添う。

※まだ難しいと思ったこと※

- 表現方法はもう少し勉強しないと難しい。
- 交渉術をもっと学び、保護者との関わりに生かしたい。

「取り組めると思ったこと」

精神障害施設 自立訓練 就労支援 B型 35人 移行 6人 系 60名

- 退院後のフォロー
- 発達障害もあり
- 色メガネで見ていけたら現場で職員と共有していく

スペクトラムの理解が分かっている上での反省点があった。

→講義を聞いて、時代の流れを感じた。

行政側・施設側の視点での学びもあった。

18歳～65歳までの施設

- 知的・精神半々  
視覚支援の重要性  
言葉の使い方

「無理だ、難しいと思ったこと」

- 保護者の高齢化が問題  
成人で精神（知的なし）
- 職員同士の情報共有必要
- 多様な病状の対応策
  - ▶ 作業を切りはなす等
  - ▶ 職員の学び（教育）の場所を個々にまかせる。担当を決める。

- 伝え方に悩む。発想の転換をしていきたいと思った。コミュニケーションをとってうまく伝えられたらと思った。
- 1歳児でも目立つ行動があるので、保護者との話し合いが大切と思った。  
どっちかが利益ではなく、両方が気持ちのいい結果になる方法をとりたいと思った。
- 普段からたわいのない話をしていくことが大事だなと感じた。  
仕事をしているため、会えないことが多い。
- 自分の中で困っていることを取り入れながら、保護者と話をしていきたい（めがね話）  
両方が **Happy** になれることを意識して話をしていこうと思った（みかん話）
- 保護者とのコミュニケーションが大切だなと思った。日々の会話を大切にしていかなきゃいけないと改めて思った。  
はじめの一言が大事…苦手意識が伝わらない様、言葉を発していきたい。
- 放課後デイ 1年～高校。皆と同じは難しい。障がいを再確認するべきだなと感じた。  
言葉の出ないお子さんの支援。保護者の表情を読み取ったり、読み取れる環境作りをしていきたいと思った。
- 放課後デイ 車いすの子もいる中で年齢も様々で日々難しいなと感じてしまう。  
虐待があった時、母の気持ちを優先してしまうが、子がハッピーになれるには、市とのギャップなどあり、今回の講義で難しさを感じながら聞いていた。



～明日から取り組めること～

- この講義で聞いたことを職場に共有する。
- 保護者とも共同し、話し合いを進めていく。世間話から。
- 昨年とは違う立場で聞いていた。こだわりの強い子がいる。その姿を保護者と話をしているが、保護者の立場を考える。
- 気になる子が増えている。療育相談に進めることが難しい。子どもの困り感を伝え、その支援の話し方をポジティブに伝える。(将来を見据えたこの子のために)
- 保護者と職員が上手く伝えているか、もう一度確かめていく。
- 怒る方がある。指を立てる実践をすると分かりやすいということを知らせていく。

～とても無理だ、難しいと思ったこと～

- 指を立てることも分かりやすいが、揺れの心理状態が分からないので、こちらからのアプローチ。話の進め方が難しい。信頼関係が大事。
- 母と父の考え。とらえ方が違ったことがある。父が理解してもらえないこともある。
- 受け入れて機関に行くまでが難しい。伝えてはいるが…。
- 母親とは話すと理解はあるができない、いろいろな家族がある。保護者のケアも大事。慎重に進めていくこと。
- 支援の子の保護者に進め方が難しい。保護者と一緒に考えていくことが難しい。
- 本人の困りを保護者が理解してもらおう。

☆明日から取り組めると思った事

- 障害を持った児・保護者の気持ちになって対応したい。特に初めの一言を気を付けたい。
- 保護者の人も心が不安を感じている
- 保護者の人に伝える時、その子が何で困っているかを自分がしっかり分かるように保育したい。
- 子どもの障害を発見するのが仕事ではなく、その子をしっかり見ていく。
- 保護者対応は困った事を突然伝えても、保護者は困る、聞きたくないと思うので、日々の生活の中で保護者とのコミュニケーション信頼関係を築いていきたい。
- バス通園があると保護者とのコミュニケーションが取りにくい場合もあるが、保護者と会える時に常に色々な話をして、懇談会等で困っている事を伝えていこうと思った。
- 保護者の心理、伝えているが保護者は受け入れられない。不安になっている心理になっているので、そこをサポートする事を忘れないようにする。
- 決めつけ、上目線ではなく、保護者の気持ちをしっかり受け止め、子どもにとって1番良い方法を見つけていきたい。

○コミュニケーション→お便り帳（伝わり方が難しい。文字では伝わり方が違う）

○保護者に寄り添う言葉。関わり方。

☆無理、難しい

- M-CHAT チェックリストを使うのは自分が勉強しなくては使えない。
- M-CHAT の内容を理解していくと今後使えそう。しかし難しい。オレンジの例のように一人一人の時間を作っていく必要がある。
- 保護者対応していくのは実際難しく、どの言葉がいいのかを見つけるのも難しい。
- 急にしてみようとしても難しいが、意識していくのが大事だと、日々が大事だと思った。
- M-CHAT を使ってその子を見ていくのが難しい。
- Anchorin と Adjustment の例のように、いつもの姿からどうしても決めつけてしまう事が多いので気を付けたい。
- M-CHAT 等を初めて知ったので、自分が知らないと使えない。

→宿泊例もどうしてもこんな連絡を受けたら、どうしてもマイナスに受け止めてしまうので気を付けたい。

- 実体験をそのまま話しがちだが、気を付けたい。
- 保護者の迎え時、保育士からの「お母さん、すいません」←この一言で保護者はすごく構えてしまったと話を聞いたが、一言目は本当に難しい。

☆気になる子はクラスに多いか？

多くなった。

保護者には年長までに困った事例を伝えていき、年長で小学校に向けて保護者にしっかりサポートする事が大事なんだと思う。年少・年中ではしっかりした土台を築けるようにする。